



D コマンド

この章では、コマンド名が D で始まる Cisco NX-OS システム管理コマンドについて説明します。

description (EEM)

Embedded Event Manager (EEM) アプレットに説明を追加するには、**description** コマンドを使用します。説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

description *description*

no description

構文の説明

description EEM アプレットに追加するコメントまたは説明

デフォルト

なし

コマンドモード

Embedded Event Manager

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、EEM アプレットに説明を追加する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager applet counter-applet
switch(config-applet)# action 1.2 counter name count1 value $variable op dec
Switch(config-applet)# description "counter policy for acme"
switch(config-applet)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show event manager policy	設定されている EEM ポリシーに関する情報を表示します。

description (NetFlow レコード)

NetFlow レコードに説明を追加するには、**description** コマンドを使用します。説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

description *line*

no description [*line*]

構文の説明

line 説明のストリング。63 文字以内の英数字のストリングを指定します。

デフォルト

なし

コマンドモード

NetFlow レコード コンフィギュレーション (config-flow-record)

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、NetFlow レコードに説明を追加する例を示します。

```
switch(config)# flow record NetFlow-Record-1
switch(config-flow-record)# description Custom-Flow-Record-1
switch(config-flow-record)#
```

次に、説明を削除する例を示します。

```
switch(config-flow-record)# no description
```

関連コマンド

コマンド	説明
show flow record	NetFlow レコードに関する情報を表示します。

description (NetFlow モニタ)

NetFlow モニタに説明を追加するには、**description** コマンドを使用します。説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

description *line*

no description [*line*]

構文の説明

line 説明のストリング。63 文字以内の英数字のストリングを指定します。

デフォルト

なし

コマンドモード

NetFlow モニタ コンフィギュレーション (config-flow-monitor)

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、NetFlow モニタに説明を追加する例を示します。

```
switch(config)# flow monitor NetFlow-Monitor-1
switch(config-flow-monitor)# description Custom-Monitor-1
switch(config-flow-monitor)#
```

次に、説明を削除する例を示します。

```
switch(config-flow-monitor)# no description
```

関連コマンド

コマンド	説明
show flow sw-monitor	NetFlow モニタに関する情報を表示します。

description (NetFlow エクスポート)

NetFlow エクスポートに説明を追加するには、**description** コマンドを使用します。説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

description *line*

no description [*line*]

構文の説明	<i>line</i>	説明のストリング。63 文字以内の英数字のストリングを指定します。
デフォルト		なし
コマンドモード		NetFlow エクスポート コンフィギュレーション (config-flow-exporter)
サポートされるユーザロール		network-admin vdc-admin
コマンド履歴	リリース	変更箇所
	4.0(1)	このコマンドが追加されました。
使用上のガイドライン		このコマンドには、ライセンスは必要ありません。
例		次に、NetFlow エクスポートに説明を追加する例を示します。 <pre>switch(config)# flow export Netflow-Exporter-1 switch(config-flow-exporter)# description Custom-Exporter-1 switch(config-flow-exporter)</pre> 次に、説明を削除する例を示します。 <pre>switch(config-flow-exporter)# no description switch(config-flow-exporter)</pre>
関連コマンド	コマンド	説明
	show flow exporter	NetFlow エクスポートに関する情報を表示します。

description (NetFlow サンプラ)

NetFlow サンプラに説明を追加するには、**description** コマンドを使用します。説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

description *line*

no description [*line*]

構文の説明

line 説明のストリング。63 文字以内の英数字のストリングを指定します。

デフォルト

なし

コマンドモード

NetFlow サンプラ コンフィギュレーション (config-flow-sampler)

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、NetFlow サンプラに説明を追加する例を示します。

```
switch(config)# sampler Netflow-Sampler-1
switch(config-flow-sampler)# description Custom-Sampler-1
switch(config-flow-sampler)#
```

次に、説明を削除する例を示します。

```
switch(config-flow-sampler)# no description
```

関連コマンド

コマンド	説明
show sampler	NetFlow サンプラに関する情報を表示します。

description (SPAN)

ポート間のトラフィック分析のために、イーサネットのスイッチドポートアナライザ (SPAN) セッションに説明を追加するには、**description** コマンドを使用します。説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

description *description*

no description

構文の説明

description SPAN セッションに追加する、32 文字以内のコメントまたは説明。

デフォルト

なし

コマンドモード

モニタ コンフィギュレーション (config-monitor)

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、SPAN セッションに説明を追加する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# monitor session 3
switch(config-monitor)# description span_session_3
```

関連コマンド

コマンド	説明
monitor session	SPAN セッションを設定するため、モニタ コンフィギュレーション モードを開始します。
show monitor session	指定した SPAN セッションの設定を表示します。

destination

NetFlow エクスポートの宛先を指定するには、**destination** コマンドを使用します。宛先を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
destination {ipaddr | ipv6addr} [use-vrf vrf_name]
```

```
no destination [{ipaddr | ipv6addr} [use-vrf vrf_name]
```

構文の説明

<i>ipaddr</i>	コレクタの宛先 IP アドレス。
<i>ipv6addr</i>	コレクタの宛先 IPv6 アドレス。
use-vrf <i>vrf_name</i>	(任意) Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよびフォワーディング) ラベルを指定します。

デフォルト

なし

コマンド モード

NetFlow エクスポート コンフィギュレーション (config-flow-exporter)

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、NetFlow エクスポートの宛先を指定する例を示します。

```
switch(config)# Flow exporter NetFlow-Exporter-1
switch(config-flow-exporter)# destination 192.168.11.2
switch(config-flow-exporter)#
```

次に、宛先を削除する例を示します。

```
switch(config-flow-exporter)# no destination
```

関連コマンド

コマンド	説明
show flow exporter	NetFlow エクスポートに関する情報を表示します。

destination interface (SPAN)

ポート間のトラフィック分析のために、イーサネットのスイッチドポートアナライザ (SPAN) セッションへの宛先インターフェイスを追加するには、**destination interface** コマンドを使用します。宛先を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

destination interface {*ethernet number* | *port-channel number*}

no destination interface {*ethernet number* | *port-channel number*}

構文の説明

ethernet number	指定した SPAN セッションの宛先イーサネット インターフェイス スロット番号を指定します。送信元パケットは、この宛先からコピーされます。指定できる範囲は 1 ~ 10 です。
port-channel number	指定した SPAN セッションの宛先ポート チャネル インターフェイスを指定します。送信元パケットは、この宛先からコピーされます。指定できる範囲は 1 ~ 4096 です。

デフォルト

なし

コマンドモード

モニタ コンフィギュレーション (config-monitor)

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、SPAN セッションに宛先を追加する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# monitor session 3
switch(config-monitor)# destination interface ethernet 2/5, ethernet 3/7
```

関連コマンド

コマンド	説明
monitor session	SPAN セッションを設定するため、モニタ コンフィギュレーション モードを開始します。

コマンド	説明
show monitor session	指定した SPAN セッションの設定を表示します。
description	SPAN セッションに、32 文字以内のコメントまたは説明を追加します。

destination-profile

Call home の宛先プロファイルを作成し、名前を付けるには、**destination-profile** コマンドを使用します。宛先プロファイルを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

destination-profile *profile_name*

no destination-profile *profile_name*

構文の説明

profile_name ユーザ定義の宛先プロファイルの名前。

デフォルト

なし

コマンド モード

Call home コンフィギュレーション (config-callhome)

サポートされるユーザ ロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

Cisco NX-OS には、次の定義済み宛先プロファイルが含まれています。

- CiscoTAC-1 : XML メッセージフォーマットの Cisco-TAC アラート グループをサポートします。このプロファイルは、`callhome@cisco.com` という E メール コンタクト、最大メッセージ サイズ、およびメッセージ重大度 0 で設定済みです。このプロファイルのデフォルト情報はどれも変更できません。
- `full-text-destination` : フル テキスト メッセージ フォーマットをサポートします。
- `short-text-destination` : ショート テキスト メッセージ フォーマットをサポートします。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、Noc101 という名前の Call home の宛先プロファイルを作成する例を示します。

```
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# destination-profile Noc101
```

次に、Call home Noc101 の宛先プロファイルを削除する例を示します。

```
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# no destination-profile Noc101
```

関連コマンド

コマンド	説明
show callhome destination-profile name	指定した Call home の宛先プロファイルを表示します。
show callhome	Call home コンフィギュレーションを表示します。

destination-profile alert-group

Call home の宛先が受信するアラートを指定するには、**destination-profile alert-group** コマンドを指定します。アラート グループを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

destination-profile *profile_name* **alert-group** {**All** | **Configuration** | **Diagnostic** | **EEM** | **Cisco-TAC** | **Environmental** | **Inventory** | **License** | **Linecard-Hardware** | **Supervisor-Hardware** | **Syslog-group-port** | **System** | **Test**}

no destination-profile *profile_name* **alert-group** {**All** | **Configuration** | **Diagnostic** | **EEM** | **Cisco-TAC** | **Environmental** | **Inventory** | **License** | **Linecard-Hardware** | **Supervisor-Hardware** | **Syslog-group-port** | **System** | **Test**}

構文の説明

<i>profile_name</i>	ユーザ定義の Call home の宛先プロファイルの名前。
alert-group	指定した Call home の宛先プロファイルにアラート グループを追加します。
All	Call home の宛先プロファイルで、すべての Call home メッセージを受信するよう、指定します。
Configuration	Call home の宛先プロファイルに、コンフィギュレーションに関連するイベントが通知されるよう、指定します。
Diagnostic	Call home の宛先プロファイルに、診断に関連するイベントが通知されるよう、指定します。
EEM	Call home の宛先プロファイルに、EEM イベントが通知されるよう、指定します。
Cisco-TAC	Call home の宛先プロファイルに、Cisco TAC のみに対するイベントが通知されるよう、指定します。
Environmental	Call home の宛先プロファイルに、電源、ファン、および温度に関連するイベントが通知されるよう、指定します。
Inventory	Call home の宛先プロファイルに、インベントリ ステータス イベントが通知されるよう、指定します。
License	Call home の宛先プロファイルに、ライセンスに関連するイベントが通知されるよう、指定します。
Linecard-Hardware	Call home の宛先プロファイルに、ラインカードに関連するイベントが通知されるよう、指定します。
Supervisor-Hardware	Call home の宛先プロファイルに、スーパーバイザに関連するイベントが通知されるよう、指定します。
Syslog-group-port	Call home の宛先プロファイルに、ポート マネージャによって記録された Syslog メッセージに関連するイベントが通知されるよう、指定します。
System	Call home の宛先プロファイルに、ソフトウェアに関連するイベントが通知されるよう、指定します。
Test	Call home の宛先プロファイルに、ユーザによって生成されたテスト イベントが通知されるよう、指定します。

デフォルト

なし

コマンド モード

Call home コンフィギュレーション (config-callhome)

■ destination-profile alert-group

サポートされるユーザ ロール network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、宛先プロファイルで、Call home メッセージを受信するよう、指定する例を示します。

```
switch# config t
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# destination-profile Noc101 alert-group All
switch(config-callhome)# show callhome destination-profile profile Noc101

Noc101 destination profile information
maximum message size:2500000
message format:XML
message-level:0
email addresses configured:

alert groups configured:
all
```

関連コマンド

コマンド	説明
show callhome	Call home コンフィギュレーションを表示します。

destination-profile email-addr

Call home の宛先の E メールアドレスを指定するには、**destination-profile email-addr** コマンドを指定します。E メールアドレスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

destination-profile *profile-name* **email-addr** *email-address*

no destination-profile *profile-name* **email-addr** *email-address*

構文の説明	
<i>profile-name</i>	E メールアドレスが追加される、Call home の宛先プロファイルに、ユーザが付けた名前。
email-addr <i>email-address</i>	Call home の宛先プロファイルに追加される E メールアドレスを指定します。

デフォルト なし

コマンドモード Call home コンフィギュレーション (config-callhome)

サポートされるユーザロール network-admin
vdc-admin

コマンド履歴	リリース	変更箇所
	4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例 次に、Call home の宛先の E メールアドレスを指定する例を示します。

```
switch# config t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# destination-profile Noc101 email-addr jdoe@callhome.com
switch(config-callhome)# show callhome destination-profile profile Noc101

Noc101 destination profile information
maximum message size:2500000
message format:XML
message-level:0
email addresses configured:
jdoe@callhome.com

alert groups configured:
all
```

■ destination-profile email-addr

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show callhome</code>	Call home コンフィギュレーションを表示します。

destination-profile format

Call home の宛先に送信するメッセージのメッセージ形式を指定するには、**destination-profile format** コマンドを指定します。

destination-profile *profile_name* format {full-txt | short-txt | XML}

構文の説明

profile_name	メッセージの形式が指定される、Call home の宛先プロファイルに、ユーザが付けた名前。
format	指定した宛先に Call home メッセージを送信する形式を設定します (XML がデフォルトです)。
full-txt	名前付きの Call home の宛先にプレーン テキストでメッセージが送信されるよう、指定します。
short-txt	名前付きの Call home の宛先にショート テキストでメッセージが送信されるよう、指定します。
XML	名前付きの Call home の宛先に XML でメッセージが送信されるよう、指定します。XML は、Call home メッセージのデフォルトの形式です。

デフォルト

XML

コマンド モード

Call home コンフィギュレーション (config-callhome)

サポートされるユーザ ロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、Call home の宛先へのメッセージの送信に使用される、メッセージ形式を設定する例を示します。

```
switch(config-callhome)# destination-profile acme_destination format full-txt
```

関連コマンド

コマンド	説明
show callhome destination-profile	Call home の宛先プロファイルを表示します。
show callhome	Call home コンフィギュレーションを表示します。

destination-profile http

Call home の宛先の HTTP URL または HTTPS URL を指定するには、**destination-profile http** コマンドを指定します。URL を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

destination-profile *profile-name* **http** *url*

no destination-profile *profile-name* **http** *url*

構文の説明	
<i>profile-name</i>	Call home の宛先プロファイルに、ユーザが付けた名前。
http <i>url</i>	Call home の宛先プロファイルに追加される HTTP URL または HTTPS URL を指定します。

デフォルト なし

コマンド モード Call home コンフィギュレーション (config-callhome)

サポートされるユーザ ロール network-admin
vdc-admin

コマンド履歴	リリース	変更箇所
	4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例
次に、Call home の宛先の URL を設定する例を示します。

```
switch(config-callhome)# destination-profile acme_destination http
http://my_url,com/callhome
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show callhome destination-profile	Call home の宛先プロファイルを表示します。
	show callhome	Call home コンフィギュレーションを表示します。

destination-profile message-level

Call home の宛先に送信されるアラートの重大度レベルを指定するには、**destination-profile message-level** コマンドを使用します。

destination-profile *profile_name* **message-level** *number*

構文の説明

<i>profile_name</i>	メッセージの形式が指定される、Call home の宛先プロファイルに、ユーザが付けた名前。
message-level	Call home の宛先に送信されるメッセージの重大度レベルを指定します。
<i>number</i>	メッセージの重大度レベルの指定は、緊急度が最も低いレベル 0 で始まり、緊急度が最も高いレベル 9 に進みます。たとえば、レベル 5 を指定すると、レベル 5 またはそれ以上で指定されたすべてのメッセージが、宛先に送信されます。

デフォルト

なし

コマンドモード

Call home コンフィギュレーション (config-callhome)

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、重大度 5 またはそれ以上のメッセージが Call home の宛先に送信されるよう、指定する例を示します。

```
switch(config-callhome)# destination-profile acme_destination message-level 5
```

関連コマンド

コマンド	説明
show callhome destination-profile	Call home の宛先プロファイルを表示します。
show callhome	Call home コンフィギュレーションを表示します。

destination-profile message-size

Call home の宛先に送信されるメッセージで使用できる最大サイズを指定するには、**destination-profile message-size** コマンドを使用します。

destination-profile *profile_name* message-size *number*

構文の説明

<i>profile_name</i>	メッセージの最大サイズが指定される、Call home の宛先プロファイルに、ユーザが付けた名前。
message-size	指定した Call home の宛先に送信されるメッセージで使用できる最大サイズを指定します。デフォルト値は 2500000 です。
<i>number</i>	指定した Call home の宛先に送信されるメッセージで使用できる最大サイズ。範囲は 0 ~ 5000000 です。

デフォルト

2500000

コマンドモード

Call home コンフィギュレーション (config-callhome)

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、Call home の宛先に送信されるメッセージの最大メッセージ サイズ 100000 を設定する例を示します。

```
switch(config-callhome)# destination-profile acme_destination message-size 100000
```

関連コマンド

コマンド	説明
show callhome destination-profile	Call home の宛先プロファイルを表示します。
show callhome	Call home コンフィギュレーションを表示します。

destination-profile transport-method

Call home メッセージを宛先に転送する方式を指定するには、**destination-profile transport-method** コマンドを使用します。転送方式を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

destination-profile *profile-name* **transport-method** [**email** | **http**]

no destination-profile *profile-name* **transport-method** [**email** | **http**]

構文の説明

<i>profile-name</i>	転送方式が指定される、Call home の宛先プロファイルに、ユーザが付けた名前。
transport-method	Call home の宛先にメッセージを送信する方式 (E メールまたは HTTP) を指定します。
email	(任意) E メールを使用して Call home メッセージを Call home の宛先に送信する場合に、E メールを指定します。
http	(任意) HTTP を使用して Call home メッセージを Call home の宛先に送信する場合に、HTTP を指定します。

デフォルト

なし

コマンドモード

Call home コンフィギュレーション (config-callhome)

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、Call home メッセージを宛先に転送する HTTP を指定する例を示します。

```
switch(config-callhome)# destination-profile acme_destination transport-method http
switch(config-callhome)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show callhome destination-profile	Call home の宛先プロファイルを表示します。
show callhome	Call home コンフィギュレーションを表示します。

diagnostic bootup level

デバイスの起動時に診断がトリガーされるようにブートアップ診断レベルを設定するには、**diagnostic bootup level** コマンドを使用します。

diagnostic bootup level {bypass | complete}

構文の説明

bypass	ブートアップ診断を実行しないようにします。
complete	すべてのブートアップ診断を表示します。 complete がデフォルトです。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール

network-admin
network-operator
vdc-admin
vdc-operator

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、ブートアップ診断レベルを設定する例を示します。

```
switch(config)# diagnostic bootup level bypass
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show diagnostic bootup level	ブートアップ診断レベルを表示します。

diagnostic clear result module

指定されたテストの診断テスト結果をクリアするには、**diagnostic clear result module** コマンドを使用します。

diagnostic clear result module [**slot** | **all**] **test** {*test-id* | **all**}

構文の説明

slot	(任意) 特定のモジュール番号の診断テストをクリアするように指定します。指定できる範囲は 1 ~ 10 です。
all	(任意) すべてのモジュールのすべてのテストの結果を表示します。
test	選択した診断テストを表示します。
<i>test-id</i>	テスト ID。範囲は 1 ~ 14 です。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール

network-admin
network-operator
vdc-admin
vdc-operator

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、診断テスト結果をクリアする例を示します。

```
switch# diagnostic clear result module 6 test 6
```

関連コマンド

コマンド	説明
show diagnostic result	指定されたテストの診断テスト結果を表示します。

diagnostic monitor interval module

モジュールに診断をモニタするテスト間隔を設定するには、**diagnostic monitor interval module** コマンドを使用します。診断をモニタするテスト間隔を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
diagnostic monitor interval module module test {all | name | test-id} hour hour min min second sec
```

```
no diagnostic monitor interval module module test {all | name | test-id}
```

構文の説明

<i>module</i>	モジュール番号。
test	診断テストを指定します。
all	すべてのテスト ID を指定します。
<i>name</i>	テスト名。
<i>test-id</i>	テスト ID 番号。
hour	テスト間隔が開始される時刻を指定します。
<i>hour</i>	テストを開始するようユーザが指定する、テスト間隔が開始される時刻。
min	テスト間隔が開始される分を指定します。
<i>min</i>	テストを開始するようユーザが指定する、テスト間隔が開始される分。
second	テスト間隔が開始される秒を指定します。
<i>sec</i>	テストを開始するようユーザが指定する、テスト間隔が開始される秒。

デフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、モジュールに診断をモニタするテスト間隔を設定する例を示します。

```
switch(config)# diagnostic monitor interval module 1 test 5 hour 10 min 30 sec 0  
switch(config)#
```

次に、モジュールから診断をモニタするテスト間隔を削除する例を示します。

■ diagnostic monitor interval module

```
switch(config)# no diagnostic monitor interval module 1 test 5 hour 10 min 30 sec 0  
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show running-config diagnostic	実行コンフィギュレーションの診断を表示します。
diagnostic monitor module	診断モニタ テストを設定します。

diagnostic monitor module

診断モニタ テストを設定するには、**diagnostic monitor module** コマンドを使用します。モニタ テストを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

diagnostic monitor module *module test* {**all** | *name* | *test-id*}

no diagnostic monitor module *module test* {**all** | *name* | *test-id*}

構文の説明

<i>module</i>	モジュール番号。
test	診断テストの選択を指定します。
all	すべてのテスト ID を指定します。
<i>name</i>	テスト名。最大文字数は 32 です。
<i>test-id</i>	テスト ID 番号。

デフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、診断モニタ テストを設定する例を示します。

```
switch(config)# diagnostic monitor module 1 test all
```

```
switch(config)#
```

次に、診断モニタ テストを削除する例を示します。

```
switch(config)# no diagnostic monitor module 1 test all
```

```
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show startup-config diagnostic	スタートアップ コンフィギュレーションの診断を表示します。
show running-config diagnostic	実行コンフィギュレーションの診断を表示します。

diagnostic ondemand action-on-failure

オンデマンドテストでエラーが発生したときに実行するアクションを設定するには、**diagnostic ondemand action-on-failure** コマンドを使用します。

diagnostic ondemand action-on-failure {continue failure-count *num-fails* | stop}

構文の説明

continue failure-count <i>num-fails</i>	テスト エラーの回数が制限値に達するまでオンデマンドテストを表示します。指定できる範囲は 1 ~ 999 です。デフォルトは 1 です。
stop	テストが失敗したオンデマンドテストをすぐに停止します。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール

network-admin
network-operator
vdc-admin
vdc-operator

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、オンデマンドテストでエラーが発生した場合のアクションを設定する例を示します。

```
switch# diagnostic ondemand action-on-failure continue failure-count 992
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show diagnostic ondemand	オンデマンドテストに関する情報を表示します。

diagnostic ondemand iteration

オンデマンドテストの実行回数を設定するには、**diagnostic ondemand iteration** コマンドを使用します。

diagnostic ondemand iteration *number*

構文の説明

number (任意) オンデマンドテストの実行回数。指定できる範囲は1～999です。デフォルトは1です。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール

network-admin
network-operator
vdc-admin
vdc-operator

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、オンデマンドテストの実行回数を設定する例を示します。

```
switch# diagnostic ondemand iteration 992
```

関連コマンド

コマンド	説明
show diagnostic ondemand	オンデマンドテストに関する情報を表示します。

diagnostic start

モジュールのオンデマンド診断テストを開始するには、**diagnostic start** コマンドを使用します。

diagnostic start module slot test [*test-id* | *test-name* | **all** | **non-disruptive**] [**port** *port-number* | **all**]

構文の説明

<i>slot</i>	(任意) 診断開始スロット番号。指定できる範囲は 1 ~ 10 です。
test	診断テストを表示します。
<i>test-id</i>	(任意) テスト ID。範囲は 1 ~ 14 です。
<i>test-name</i>	(任意) テスト名。名前は、大文字と小文字が区別される 32 文字以下の任意の英数字文字列にできます。
all	(任意) すべてのポートを表示します。
non-disruptive	(任意) ノンディスラプティブ テストを表示します。
port	(任意) ポート インターフェイスを表示します。
<i>port-number</i>	(任意) インターフェイス ポート番号。

デフォルト

なし

コマンド モード

任意のコマンド モード

サポートされるユーザ ロール

network-admin
network-operator
vdc-admin
vdc-operator

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、モジュールのオンデマンド診断テストを開始する例を示します。

```
switch# diagnostic start module 6 test all
```

関連コマンド

コマンド	説明
diagnostic stop	オンデマンド診断を停止します。

diagnostic stop

モジュールの 1 つ以上の診断テストを中止するには、**diagnostic stop** コマンドを使用します。

diagnostic stop module slot test [*test-id* | *name* | **all**]

構文の説明	
<i>slot</i>	スロット番号。スロットの範囲は 1 ~ 10 です。
test	診断テストを表示します。
<i>test-id</i>	(任意) テスト ID。範囲は 1 ~ 14 です。
<i>name</i>	(任意) テスト名。 name には最大 32 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字は区別されます。
all	(任意) すべてのモジュールのすべてのテストについて診断テストを表示します。

デフォルト なし

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザロール
network-admin
network-operator
vdc-admin
vdc-operator

コマンド履歴	リリース	変更箇所
	4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例 次に、モジュールの 1 つ以上の診断テストを中止する例を示します。

```
switch# diagnostic stop module 6 test all
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	diagnostic start	1 つ以上の診断テストを開始します。

diagnostic test simulation

モジュールの診断テストをシミュレートするには、**diagnostic test simulation** コマンドを使用します。

```
diagnostic test simulation module slot test test-id [port {number | all}] {fail | random-fail | success}
```

構文の説明

<i>slot</i>	診断テスト シミュレーションのモジュール番号。範囲は 1 からシャーシのモジュール数までです。
test <i>test-id</i>	テスト ID を指定します。指定できる範囲は 1 ～ 15 です。
port	(任意) 表示するインターフェイス ポートを指定します。
<i>number</i>	インターフェイス ポート番号。
all	すべてのインターフェイス ポートを指定します。
fail	エラーが発生したテストの結果を表示します。
random-fail	エラーが発生したテストの結果をランダムに表示します。
success	合格したテストの結果を表示します。

デフォルト

なし

コマンド モード

任意のコマンド モード

サポートされるユーザ ロール

network-admin
network-operator
vdc-admin
vdc-operator

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、テスト結果をシミュレートする例を示します。

```
switch# diagnostic test simulation module 2 test 2 fail  
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
diagnostic test simulation clear	診断テストのシミュレーションをクリアします。

diagnostic test simulation clear

モジュールの診断テストのシミュレーションをクリアするには、**diagnostic test simulation clear** コマンドを使用します。

diagnostic test simulation module *number* test *test-id* clear

構文の説明

module <i>number</i>	診断テスト シミュレーションのモジュール番号を指定します。範囲は 1 からシャーシのモジュール数までです。
test <i>test-id</i>	テスト ID を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 15 です。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール

network-admin
network-operator
vdc-admin
vdc-operator

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、診断テストのシミュレーションをクリアする例を示します。

```
switch# diagnostic test simulation module 2 test 2 clear  
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
diagnostic test simulation	診断テストをシミュレートします。

distribute

Cisco Fabric Service (CFS) で設定の配信をイネーブルにするには、**distribute** コマンドを使用します。配信をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

distribute [radius | tacacs+]

no distribute

構文の説明

radius	(任意) RADIUS 設定を配信するよう、CFS を指定します。
tacacs+	(任意) TACACS+ 設定を配信するよう、CFS を指定します。

デフォルト

なし

コマンドモード

Call home コンフィギュレーション
グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.1(2)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。
CFS でロール設定の配信をイネーブルにするには、**role distribute** コマンドを使用します。

例

次に、CFS での Call home コンフィギュレーションの配信をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# distribute
```

CFS をイネーブルにして、RADIUS コンフィギュレーションを配信する例を示します。

```
switch(config)# distribute radius
```

CFS をイネーブルにして、TACACS+ コンフィギュレーションを配信する例を示します。

```
switch(config)# distribute tacacs+
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cfs status	CFS 配信ステータスを表示します。
cfs	CFS 配信モードを指定します。
cfs region	アプリケーションの配信スコープを制限する CFS 配信リージョンを作成します。

dscp

NetFlow エクスポートの Differentiated Services Code Point (DSCP; ディファレンシエーテッド サービス コード ポイント) を指定するには、**dscp** コマンドを使用します。DSCP パラメータを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dscp *dscp*

no dscp [*dscp*]

構文の説明

dscp Differentiated Services Code Point の値。指定できる範囲は 0 ~ 63 です。

デフォルト

なし

コマンド モード

NetFlow エクスポート コンフィギュレーション (config-flow-exporter)

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、DSCP パラメータを設定する例を示します。

```
switch(config)# Flow exporter Custom-NetFlow-Exporter-1
switch(config-flow-exporter)# dscp 32
switch(config-flow-exporter)#
```

次に、DSCP パラメータを削除する例を示します。

```
switch(config-flow-exporter)# no dscp
switch(config-flow-exporter)
```

関連コマンド

コマンド	説明
show flow exporter	NetFlow エクスポートに関する情報を表示します。